

情報モラル教育に関する研究

～小学生からの情報リテラシー定着をめざして～

福島県教育センター 情報教育チーム 指導主事 高萩 雅人

1 研究の趣旨

本研究の目的は、様々な手段を用いて子どもたちに情報モラル・情報リテラシーを身に付けさせ、ネット社会においてインターネットを安全・安心に活用できるよう育てることである。

ここ数年、スマートフォンだけでなく、ゲーム機やiPadなどの情報端末機器の普及により、大人だけでなく子どもたちも手軽にインターネットができるようになった。情報端末機器の所持率は急速に増加し、SNSやゲームでのネットトラブルやネットいじめによる問題も増加している。

また、インターネット端末の利用は年々低年齢化しており、子どもたちが自覚なしで加害者や被害者になってしまう現状がある。

教員や保護者は、子どもたちを取り巻くインターネット環境やインターネット利用状況を把握し、学校や家庭での情報モラル教育を通して、子どもたちの情報モラル・情報リテラシーの向上を目指す必要がある。本研究では、研究協力校での実態調査や指導の支援を行うことで「教員による指導」「保護者への啓発活動」「生徒の活動」を通して、情報モラル・情報リテラシーの定着を図っていききたい。

2 研究の概要

(1) 児童の実態調査 ※1

- 安心協 ILAS テストによる情報リテラシーの把握

(2) 教員の指導力向上

① 授業等への支援

- 道徳の授業における情報モラル指導への支援

② 校内研修会の実施

- インターネットの課題を知らせる研修会
- 情報モラル教育と道徳の関わりを知らせる研修会

③ ネットアドバイザー養成

- 各学校で情報モラルを指導できる教員養成研修会

(3) 保護者への啓発用資料

- 情報モラル講演会の実施

- 「すまあと通信」の作成、発行

※1 安心協 ILAS テスト

総務省が青少年のネットリテラシー向上のための前提として、インターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状を可視化するため、その能力を数値化するテストとして ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students / 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標) を開発した。

安心ネットづくり促進協議会 (以下、安心協) では、総務省の ILAS を援用し、小学生から大人まで実施可能な平易で短時間で回答できる設問として「安心協 ILAS」を開発した。

3 成果と今後の課題

(1) 成果

① 研究協力校において情報リテラシーに関する調査を行い、生徒の実態を把握することができ、各学校での課題が浮き彫りになった。また、教員研修会を通じて、教員の情報モラル指導に対する意識を把握することができた。

② 新地町教育委員会のご協力で新地町小中学校教員対象に「ネットアドバイザー養成講座」を実施することができた。今後の各学校での情報モラル指導が期待できる。

③ 情報モラル啓発資料「すまあと通信」を作成し、県教育センターWebサイトに掲載したところ、多くの人にダウンロードされている。多くの学校で広く活用され、各家庭での情報モラル指導に生かしてくれることを期待する。

(2) 課題

① ネットアドバイザーの先生方が、各学校で中心となって情報モラル指導が行えるようアフターフォローできるようにしていく。

② 児童生徒の情報モラルに関する知識を高めさせるだけでなく、獲得した知識をどのように行動につなげていくのが課題である。